

経営人類学者、「社史」を書く

—「社史」作成からみえる「継ぐ」ということ—

現在、日本は言うまでもなく、韓国、中国などの東アジア諸国において、事業や家業の継承が極めて重要な問題となっている。従来、この問題に関しては「事業」（ビジネス）の側面に焦点が当てられ、その背後にある「家族」「社会的制度」「事業に関連する技術や技能、後継者（経営者や職人）の職業継続」などの関連性に関する研究は非常に少ない。しかしながら、事業や家業の継承問題は、その背景にある諸要因と切り離すことは困難であり、文化的、宗教的要素なども含めて、これらを総合的に捉えていかなければ、現実の問題解決への道筋をつかむことすら不可能である。この問題に対して、人文科学研究所第21期第5研究会では「伝統産業における事業・家族・制度・技術の継承に関する日・中・韓比較」を研究課題として、社会学、経営学、文化人類学等の学際的観点から、そして中国、韓国、日本の研究者による国際的視点から焦点をあてようとする試みを行っている。本研究の構成員の多くは、1994年に国立民族学博物館で開始され、今日まで継続している「経営人類学：会社文化の人類学的研究」のメンバーであり、既に国内外に多くの業績を発表している国際・学際研究の経験者である。本プロジェクトチームの独自性は、このように対象を深掘りする上で、多くの隣接分野の研究者が集まった重層的な視点から調査研究を進める点にある。本講演は、経営人類学の観点から企業活動を観察された研究であり、日本の社史文化について述べられるものである。

日本は「社史大国」といわれ、会社の歴史を記した社史は、その会社の永続性を目に見えるかたちにしたものといえる。講演者は、今年創業55周年をむかえた、カッターナイフの製造販売会社であるオルファ株式会社の社史作成に関わった。創業者・岡田良男氏は、1956年、世界で初めての「折る刃式カッターナイフ」を発明した。これは、現在世界中で使われているカッターナイフの原型である。岡田氏は、一般にいう「社史」というものを嫌い、明確な経営理念を文字として残さなかった。しかし、同氏が残した多くのメモや元社員によって語られたエピソードなどから、「オルファイズム」ともいえる経営理念や行動指針が浮かびあがってきた。本講演では、オルファ株式会社の「社史＝物語」の作成を通してみえてきた、事業を「継ぐ」ということについて話す。

同志社大学人文科学研究所第21期第5研究会代表

同志社大学社会学部教授 藤本 昌代

登壇者プロフィール

❖ 岩井 洋 (いわい ひろし)

帝塚山大学全学教育開発センター教授。専門は経営人類学、宗教社会学。日本・韓国をフィールドワークし、企業経営について研究してきた。経営人類学関係の著書に『経営理念—継承と伝播の経営人類学的研究—』（共著・PHP研究所、2008）、『アジア企業の経営理念—生成・伝播・継承のダイナミズム—』（共著・文眞堂、2013）、『テキスト 経営人類学』（共著・東方出版、2019）、『オルファイズム：岡田良男とオルファ株式会社の挑戦』（オルファ、2022）がある。2012年から17年まで帝塚山大学学長として大学経営に関わった経験をもとに、『大学論の誤解と幻想』（弘文堂、2020）を出版。また経営人類学とは別に、西欧社会をフィールドワークし民俗・民衆宗教を研究してきた。宗教社会学関係の著書に『目からウロコの宗教：人はなぜ「神」を求めるのか』（PHP研究所、2003）、『グローバル化するアジア宗教』（共著・東方出版、2012）、『宗教社会学を学ぶ人のために』（共著・世界思想社、2016）がある。現在、宗教を経営の視点から分析する『宗教の経営学』を執筆中。

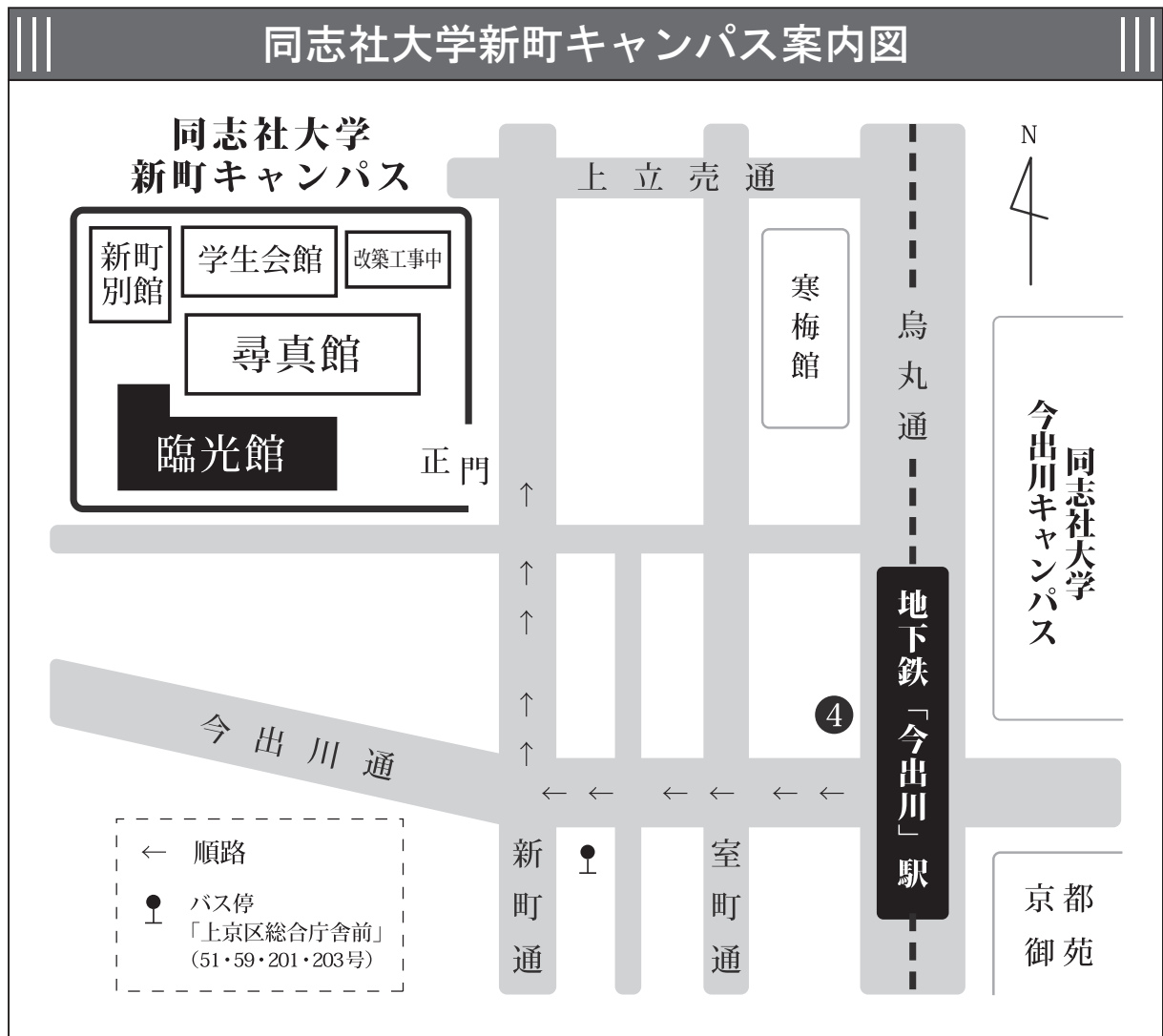
❖ 三井 泉 (みつ いずみ)

園田学園女子大学経営学部教授。専門は、経営学、経営学史、経営哲学、経営人類学。特にマネジメント思想における「人間・組織・社会の関係」に興味を持ち、理論と学際的フィールドリサーチの双方からこの問題に取り組んでいる。著書に、『経営理念—継承と伝播の経営人類学的研究—』（共編著・PHP研究所、2008）、『社会的ネットワーク論の源流—M.P.フォレットの思想—』（単著・文眞堂、2009）、『アジア企業の経営理念—生成・伝播・継承のダイナミズム—』（編著・文眞堂、2013）、『テキスト 経営人類学』（共著・東方出版、2019）Enterprise as a Carrier of Culture（共編著・Springer、2019）、Cultural Translation of Management Philosophy in Asian Companies（編著・Springer、2020）などがある。

❖ 藤本 昌代 (ふじもと まさよ)

同志社大学社会学部教授。専門は産業社会学。「客観的知識」を扱う科学技術系の研究開発を行う組織、特に100年以上継続する老舗系の組織で就業する人々の意識や行動への「主観的」、「社会的」な理念、組織内外の制度の影響に関心を持っている。著作には『企業経営のエスノグラフィ』（共著・東方出版、2020）、『欧州の教育・雇用制度と若者のキャリア形成：国境を越えた人材流動化と国際化への指針』（共著・白桃書房、2019）、Cultural Translation of Management Philosophy in Asian Companies（共著・Springer、2020）、『テキスト 経営人類学』（共著・東方出版、2019）、『アジア企業の経営理念—生成・伝播・継承のダイナミズム—』（共著・文眞堂、2013）、『産業集積地の継続と革新—京都伏見酒造業への社会学的接近—』（共著・文眞堂、2010）、『経営理念—継承と伝播の経営人類学的研究—』（共著・PHP研究所、2008）、『専門職の転職構造—組織準拠性と移動—』（単著・文眞堂、2005）がある。

同志社大学新町キャンパス案内図



▼ 最寄駅＜京都市営地下鉄烏丸線「今出川」駅＞へは

- | | | |
|-------|---|---------------------------------|
| J | R | 「京都」駅から地下鉄烏丸線に乗換 |
| 京阪・叡山 | | 「出町柳」駅より西へ徒歩15分、または市バス201号で約10分 |
| 近鉄 | | 「竹田」駅から地下鉄烏丸線に乗換 |
| 阪急 | | 「烏丸」駅から地下鉄烏丸線に乗換 |

▼ 新町キャンパスへは

地下鉄「今出川」駅④番出口より今出川通を西へ。
 交差点「今出川新町」右折、新町通を北へ。上記地図の ← 順路 をご確認ください。

▼ 臨光館へは

正門に入って左手の建物が「臨光館」です。

